

13 同居人・配偶関係別の自殺の状況

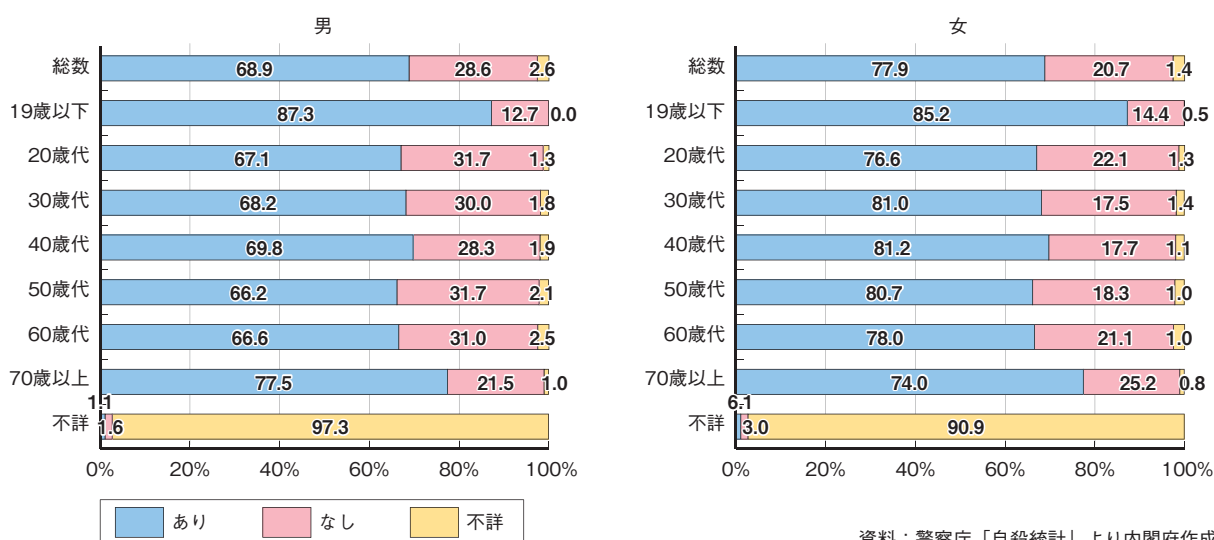
平成19年における同居人別の自殺の状況について自殺統計によれば（第1-37図）、男女とも、全ての年齢階級で、同居人が「ある」者が多くなっている。

平成20年における配偶関係別の自殺の状況をみると（第1-38図）、総数は男女とも、「有配偶者」（男9,571人（44.5%）、女3,457人（39.9%））が最も高くなっている。年齢階級別にみると、男女とも、20歳代・30歳代は「未婚」が多く、40歳代・50歳代は「有配

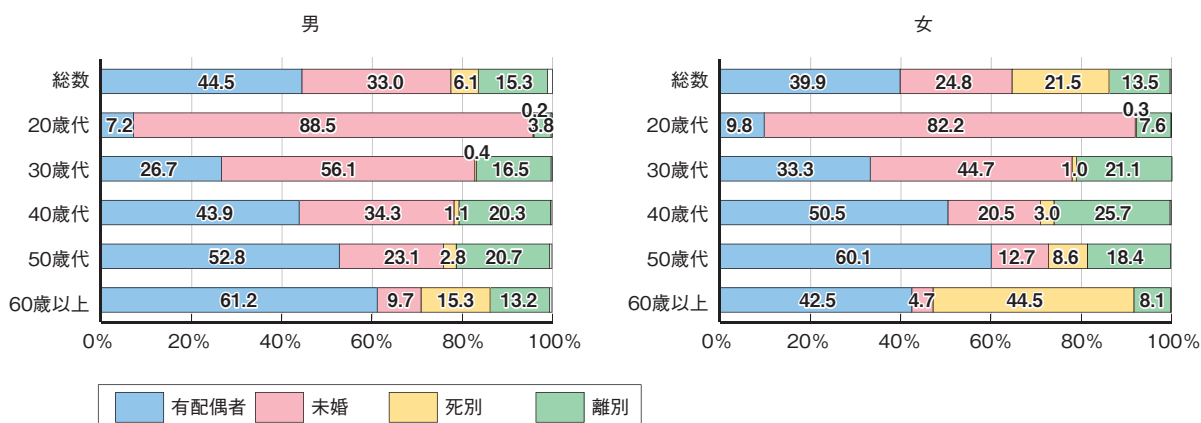
偶者」が多く、60歳以上は、男性は「有配偶者」、女性は「死別」が多くなっている。

次に、平成17年における配偶関係別の自殺死亡率の状況をみると（第1-39表）、男女とも、「有配偶」は全ての年齢階級で総数よりも低くなっている一方、「未婚」、「死別」、「離別」は総数よりも高くなっている。特に、40歳代及び50歳代の男性の「離別」は、女性の「離別」の倍以上も高くなっている。

第1-37図 平成19年における同居人の状況別自殺者数の構成割合



第1-38図 平成20年における男女別・年齢階級別（10歳階級）配偶関係別の自殺者数の割合



第1-39表 平成17年における配偶関係別の自殺死亡率の状況

男

年 齢 階 級	総 数	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
総 数	1.00	0.67	0.82	1.18	1.43	1.07
有 配 偶 者	0.77	0.36	0.41	0.77	1.02	0.82
未 婚	0.96	0.71	1.14	1.78	2.32	2.38
死 別	2.05	—	—	2.64	2.93	1.93
離 別	4.78	3.49	4.71	5.38	5.45	3.85

女

年 齢 階 級	総 数	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
総 数	1.00	0.87	0.86	0.86	1.02	1.26
有 配 偶 者	0.74	0.45	0.45	0.61	0.82	0.97
未 婚	1.00	0.95	1.41	1.43	1.90	1.61
死 別	1.64	—	5.32	2.09	1.55	1.61
離 別	2.37	3.26	3.11	2.42	2.18	1.93

注意：総数（15～19歳及び年齢不詳・配偶関係不詳を含む。）の自殺死亡率（男：42.4、女：14.8）を1としたときの比率

資料：厚生労働省「人口動態調査」の再集計により作成

14 自殺未遂の状況

平成20年における自殺者の自殺未遂歴の有無について自殺統計によれば（第1-40図）、全ての年齢階級で、自殺未遂歴が「有」の者の割合は、女性が多くなっている。特に、女性の30歳代以下は、40%以上の者が自殺未遂歴が「有」となっている。また、男女とも、自殺未遂歴が「有」の者の割合は20歳代が最も多く、30歳代以降は年代が上がるにつれてその割合が小さくなっている。

次に、消防庁の救急・救助の現況によれば

（第1-41図）、自損行為による救急自動車の出場件数及び搬送人数はともに増加傾向にある。平成19年における自損行為の状況については、救急自動車の出場件数は7万1,866件であり、前年に比べ753件（1.1%）増加、搬送人数は5万2,871人であり、前年に比べ573人（1.1%）減少している。また、搬送人数総数に占める自損行為の搬送人数の比率は、横ばいで推移しており、平成19年は1.1%となっている。